

膝離断について

膝離断は大腿骨幹部のどの部位の切断よりも優れており、本法に対する批判はあたらない。大腿骨末端骨端の温存による長軸成長の結果、テコの腕が長くなり、より良好な義足の適合が得られるだけでなく、断端末の荷重が良好である。

大腿骨末端骨端の温存にもかかわらず、骨成熟後には健側大腿骨より断端が短くなり、このため義足に通常の膝ブロック継手を用いることが出来る。骨成熟に接近した時期に膝離断を行う際には、末端骨端固定術を行えば、断端荷重ができる短い大腿骨が得られる。最近では新しいデザインで外観の優れた膝継手が実用されるようになったので、骨成熟後にも好んで膝離断を行うようになった。

サイム切断について

サイム切断は、骨成熟に達した患者の外傷もしくは外科的変換術に対して好んで行われ、Hams が記載した方法により行われる。若い女性では特に頸骨・腓骨の果部を削って断端の外観をよくするようにすべきである。末端が棍棒状にふくらみ、義足の格好が悪いために、成人女性はサイム切断を拒否する側が多い。骨未成熟の小児に行われ、しばしば誤ってサイム切断と呼ばれる手技は実のところヒールパッドを温存した足関節離断に他ならない。この手技は次節で述べる。

足関節離断について

足関節離断は骨未成熟の小児に対して好んで行われる手技であり、それ以外の年齢には古典的サイム切断が行われる。

内・外果をある程度削ることもある。サイム切断と同様にヒールパッドを頸骨下端で縫合する。ヒールパッドが頸骨末端にしっかり固定されるように、前頸骨筋・長母趾伸筋・趾伸筋腱をパッドの後方に横切開を加えて足部背側に長い皮弁を作成し、奇形足部と共にパッドを切除し、前方皮弁を頸骨下端に回して後方で縫合する手技を用いると良い。この手術法をうけた小児は、サイム切断と同様に断端荷重が可能で、皮膚の損傷を生じることはない。

文献引用「小児切断と義肢」

編著：医学博士 ヨシオセトグチ 作業療法士 ルース ローゼンフェルダー

訳者：加倉井周一

出版：パシフィックサプライ株式会社